別紙様式1

# 令和5年度　学校評価表

（　中間　）

三原市立本郷小学校　　校番（17）

| a 学校教育目標 | 夢大きく心豊かな児童の育成<br>～知・徳・体　キラリと光る三つ巴っ子～ | b 経営理念<br>ミッション・ビジョン | 【ミッション】（自校の使命）<br>自分を愛し，夢を語る児童の育成<br>【ビジョン】（自校の将来像）<br>地域を愛し，確かな学力と豊かな心を持ち心身共に健康な子どもを育成し，地域・保護者から信頼される学校 |
|---|---|---|---|

| 評価計画 | | | | | | 自己評価 | | | | | 改善方策 | 学校関係者評価 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | c 中期経営目標 | d 短期経営目標 | e 目標達成のための方策 | f 評価項目・指標 | g 目標値 | 10月 h 達成値 | 2月 h 達成値 | i 達成度 | j 評価 | k 結果と課題の分析 | n 改善方策 | l 評価 イ | ロ | ハ | m コメント |
| 確かな学力 | すすんで学び，よく考え豊かに表現する力を育てる。 | ◎誰もが学ぶ喜びを感じる，主体的で対話的な学びの創造<br>★論理的思考力・コミュニケーション能力育成の場の設定 | ○既習事項と関連づけ，児童が主体的に考えるための課題設定の工夫<br>○児童の発言を引き出す，教師のファシリテート力の向上<br>○一人1回以上の研究授業による，授業改善 | ○授業が楽しいと感じている児童の割合（%）<br>○学ぶことで自分が変容していると感じている児童の割合（%） | 90<br>80 | 90.7%<br>92.8% | | 100.7%<br>116% | A | ○両項目において、達成することができた。低学年では、「みんなで学習することが楽しい」5，6年生では，教科担任制を取り入れており、「色々先生が変わって楽しい」などの意見が多かった。<br>○教職員全員で授業研究の指導案検討を行った。それを受け、授業研究では児童の見取りを行い、授業改善に努めた。集団思考の場面では、一問一答になりがちであった。 | ○振り返りの具体例を示し児童に書き方を定着させることによる、振り返りの深化。<br>○引き続き教職員全員で、指導案検討の実施。また、児童の発言を引き出し集団思考の場で児童同士が考えを深められる、教師のファシリテート力を高める研修の充実。 | ○ | | | ○国語科の点数が下がったのはなぜか.具体的にイメージしやすいものから抽象的になり複雑な問題が増えてくる内容が多いことから、下学年までに、音読・計算を確実に定着させ学年への準備を行っていく必要がある。<br>○理科の授業では、児童が前のめりになって受けていたことが授業参観から見て取れた。どの授業もそのようになると、自ずと学力が上がってくると思う。<br>○学力が低い児童に対しては、個別指導を行い、定着するようにしてほしい。<br>○学期末テストの評価等について学年毎に分析を心がけたい。<br>○子供たちの学力向上に向け、教職員全員で意欲的に取り組まれている様子がよく分かった。今後の成果に期待したい。<br>○協議時に、学年ごとの数値を提示していただくと、発達段階に即した検討ができる。<br>○高学年は整理整頓がきちんとできている。学力向上につなげてほしい。中学年も、工夫をして学力向上につなげてほしいと思う。 |
| | | ◎基礎・基本の学力向上<br>★学力テスト等目標値達成率の向上<br>（国語科・算数科） | ○学期末テスト,CDTの結果を分析し，重点課題を明らかにした授業改善<br>○三つ巴っ子タイムの充実 | ○学期末テスト80点以上の児童の割合（%）<br>○CDT学力テストの結果 | 80<br>全国平均以上 | 国語<br>76.0%<br>算数<br>77.4% | | 国語<br>95%<br>算数<br>96.8% | B | ○国語科，算数科において，目標を少し下回った。3年生の国語科においては，58.5%と目標値より大きく差があった。そこで，広島県教育委員会が作成した「学びの基盤となる調査」を2・3年生に実施したところ，語彙力に課題があることがわかった。 | ○学習前と学習後の音読を撮影し，自分の変容を客観的に捉えられるような家庭学習の実施。<br>○学びの基盤となる認知能力の育成や児童が既有知識を活用し思考するクロスワードや熟語作りゲームなどを取り入れたドリルタイムの工夫。 | | ○ | | |
| 豊かな心 | 地域を愛する心をもつとともに，夢や目標をかなえるための生活習慣を身に着けさせる。 | ◎コミュニティースクールの導入にむけた，地域（人・もの）を活用した学習の推進<br>★GT招聘，地域学習の推進<br>★周りの人への感謝の気持ちを表現する児童の育成 | ○地域ゲストティーチャーや読書ボランティアなど外部人材を積極的に活用<br>○各教科，道徳の時間，総合的な学習の時間などにおける，地域学習の充実<br>○学校内外の人と積極的に関わり，感謝の気持ちを伝える活動の充実 | 地域に貢献できていると感じている児童の割合（%） | 60 | 89 | | 148% | A | ○年度当初の目標を達成することができた。各学年において、総合的な学習の時間や生活科などの学習で、地域の方と直接かかわる機会を多くもつことができた。<br>○地域学習を行った後、感謝の気持ちを伝える活動が少ない。 | ○GTの積極的招聘の実施。<br>○学校内外の人と積極的に関わり、感謝の気持ちを伝える活動の継続。<br>○学活の話合い活動等を通して、児童が自己決定したと実感する取組の実施。 | | ○ | | ○今年度、感染症の状況が変わり、地域と関わる取組も変化する中で、「感謝の気持ちを伝える活動や機会を」と分析されたところが、素晴らしい。豊かな心の育みの大切なことだと思った。<br>○これまでコロナ禍ということで、GTの招聘を行えるか等見通しがもてないことから、評価指標が60と低めである。確実に取組をすすめてほしい。<br>○コロナ禍が明けた中で、コミュニティスクールの導入に向けてご努力されていることに敬意を表する。本郷地区における良きモデルを示していただけるものと期待している。<br>○担任と相談室の先生等との連携はもちろんのこと学校全体で共有することは、大切であると思う。 |
| | | ◎児童の自己肯定感，自己有用感を醸成する取組の推進<br>★HyperQ-Uにおける学級満足群の児童の割合の向上 | ○支持的風土の学級経営<br>○家庭との連携<br>○ふれあい相談室，SC，SSWなどの人材活用による，組織で児童を支援する仕組みづくり | HyperQ-Uにおける学級満足群の児童の割合（%） | 80 | 73 | | 91% | B | ○今回は4月に実施したHyperQ-Uの結果である。各学級によって満足群を占める児童の割合の差がある。<br>○ふれあい相談室、SC、SSWなど、児童は積極的に活用しているが、担任と相談室の先生等との連携ができていない。 | ○異学年交流実施や児童会活動実施後、振り返りを行うなど、自己有用感を醸成する取組の実施。 | ○ | | | |
| 健やかな体 | 体力を高め，食に対する高い意識を育てる。 | ○基礎体力の向上<br>★鉄棒・縄跳びの推進 | ○体育科授業の工夫と改善<br>○鉄棒・なわとびカードの活用 | ○ 二重跳びを1回以上跳べる児童の割合（%）<br>○ 逆上がりのできる児童の割合（%） | 60 | 二重跳び<br>69.9%<br>逆上がり<br>57.7% | | 二重跳び<br>116<br>逆上がり<br>96 | 二重跳び<br>A<br>逆上がり<br>B | ○二重跳びは低学年（1～3年）より、高学年（4～6年）の児童の方が、できる割合が高く81.7%の児童が1回以上できると答えた。<br>○逆上がりが「簡単にできる」「何とかできる」児童の割合は57.7%であり、20.4%の児童が「もう少しでできる」と答えた。<br>○昨年度から継続的に取り組んだことで、昨年度の3月より二重跳びができる児童は5.9%、逆上がりができる児童は3.7%上昇している。 | ○定期的に体育科授業の研修を実施。<br>○継続した鉄棒、なわとびカードの活用。<br>○トップイメージをもたせ児童の意欲向上を図るために、体育朝会等で上手な児童の発表の場を設定。 | ○ | | | ○評価指標が60という低めの設定である。昨年度の数値を参考に設定したということだが、発達段階に応じた確実な取組をすすめてほしい。<br>○自分で決めた量を完食するという取組は個別に対応した目標でよい。<br>○体力向上の面では、鉄棒（逆上がり）・縄跳び（二重跳び）と具体的目標を全校で共有することが、どの学年においても励みになるなと感じた。<br>○早寝・早起きは家庭の協力がに必須であり、学校では指導が難しいのではないか。<br>○朝食を取ってこない児童はいないのかということに対して、いないとのことで安心した。<br>○評価項目の「二重跳び」は、低学年には難度が高い。6年間の発達を見すえた「縄跳びの取組」として行うこととし、評価指標は、高学年で「二重跳びを○回」と定めた方が評価として適している。<br>○家庭での取組が主となる事項については、学校としての取組手段が限られるため、学校評価の項目としては適していない。<br>○「継続は力なり」。<br>○休憩時間には外へ出て体を動かすことをしてほしい。 |
| | | ◎食育の推進・基礎的生活習慣の確立<br>★早寝、早起き、朝ごはんの推進 | ○食育指導・保護者啓発活動の実施<br>○集中取組期間の実施 | ○集中取組期間に早寝・早起き・朝ごはんに取り組めた児童の割合（%）<br>○集中取組期間に自分が決めた量を食べきる児童の割合（%） | 80<br>90 | 72.6%<br>94% | | 90%<br>104% | B<br>A | ○学年が上がるにつれて、早寝、早起きができていない傾向が見られた。朝ごはんは主食（ごはん・パン）はとっているが、主菜や副菜はとっていないと答えた児童が7割程度いた。<br>○1学期は低学年に食育の授業を行った。また給食試食を行い、保護者にも給食指導の様子を見ていただいた。集中取組期間に自分が決めた量を完食することができた児童は、9割以上だった。 | ○学級懇談会、保健だよりでアンケート結果を公開して保護者へ啓発。<br>○栄養教諭と引き続き連携を図り、中学年や高学年で食育授業の実施。また、アレルギー等にも配慮しつつ、自分が決めた量を完食することができるような指導の継続。 | ○ | | | |
| 信頼される学校 | 地域や家庭の願いに応えるとともに，15年間を見据えた教育を行う。 | ◎情報を公開し，説明責任を果たし，満足度向上<br>★月1回以上，学校だより・学年・学級だよりの発行 | ○学年・学級通信，学校だより，メール配信システムやホームページでの情報発信<br>○学級懇談会，個人懇談会をとおして説明責任を果たす。 | 保護者へのアンケートによる情報発信への満足度の割合（%） | 90 | 94% | | 104% | A | ○学年・学級・学校だよりを定期的に発行することができた。また，メール配信やホームページ等，ICTを活用して発信することができた。<br>○学級懇談会や個人懇談会を実施し，児童の頑張りや課題を積極的に交流することができた。 | ○2学期以降，児童の生活の様子や行事等に係る，情報発信の内容の充実。<br>○学級懇談会や個人懇談会，必要に応じた保護者連携の継続。 | ○ | | | ○学年通信の発行頻度について、学年差があるのが気になったが、月に一度以上はどの学年も配信している。行事等によって回数にばらつきがあるということだったが、計画的に発信することが保護者や地域の信頼によりつながる。<br>○来年度からコミュニティースクールの導入校になっているので学校と地域と保護者の連携により一層充実したもの、強固なものにして信頼度、満足度をより高めてほしい。<br>○時間外の在校時間45時間以内の達成に向け、全職員で取り組まれており、すばらしい。<br>○通信お便りはとても良いと思う。<br>○学校、地域のつながりになっていると思う。 |
| | | ○働き方改革<br>★次世代の働き方への体制づくり | ○時間外勤務の短縮<br>○計画的な定時退校日の実施 | 時間外勤務月45h以下を6か月以上実施 | 100 | 100% | | 100% | A | ○週1回の定時退校日を確実に実行できている。また。出勤時刻と退勤時刻を決めることで、計画的に職務を遂行することができた。 | ○定時退校日と出勤時刻と退勤時刻の設定と厳守。<br>○学年間・各部の仕事の役割分担と計画的実行。<br>○来年度に向けた業務内容の見直しと精選。 | ○ | | | |

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：わからない。
ハ：自己評価は適正でない。